

けいれん（ひきつけ）を起こしたら

けいれんは、14人に1人くらいの子どもの経験するといわれており、決してまれなものではありません。けいれんを起こしている時は、ガクガク体を震わせたり、顔色が悪くなったり、呼びかけても反応がなかったりと、保護者にとって大変こわいものです。しかし、多くの場合は数分でおさまります。まずは落ち着いて対応しましょう。



急いで受診

の目安

- ☐ 熱のない（37.5℃以下）けいれん
- ☐ 生まれて初めてのけいれん
- ☐ 生後6か月以下または6歳以上のけいれん
- ☐ けいれんが5分以上続くか、短くても繰り返している
- ☐ 片側（右側または左側）だけのけいれん
- ☐ けいれんが止まっても意識がない（呼んでも、刺激しても目が覚めない）
- ☐ 手足を動かさない
- ☐ 手足の動きがおかしい

◆◆◆ 解説 ◆◆◆

- 5分以上けいれんが続く場合は、すぐに救急車を呼びましょう。救急車が来るまでは、静かに寝かせ、呼吸の状態を観察しましょう。
- 熱のないけいれん、15分以上続くけいれん、けいれんが止まった後目が覚めないなどの場合は、脳炎や脳症、てんかんなども考えられますのですぐに受診しましょう。
- ほとんどの場合、子どものけいれんは熱が出たときに起こる「熱性けいれん」です。短時間（5分以内）でけいれんは止まり、重症になることは多くはありません。まずは落ち着いて、熱があるか、持続時間は何分か、左右差があるかなどを観察しましょう。
- 解熱剤を早めに使用したり、ひんばんに使用しても熱性けいれんを予防する効果はありません。
- 激しく泣いた後に息を止めて体を突っ張ったり、全身の力が抜けてしまったりする「泣入りひきつけ」を起こすことがあります。繰り返すことが多いのですが、自然に回復し、後遺症は残りません。



- 意識が回復するまで必ず付き添いましょう。
- 吐き気があれば、むせないように体を横に向けましょう。
- 吐いた場合は嘔吐物やよだれを拭き取りましょう。